

ふりがな 氏 名	よこやま はやみ 横山 早美		職 名	准教授
取 得 学 位	博士(工学)	学会での受賞歴	学会賞(年度賞)「木綿の染色における濃染固着剤の効果に関する研究」社団法人日本繊維製品消費科学会, 51(7), 538-539, (2010)	
主な担当科目	色彩学, 染色加工学, 被服材料学			
所 属 学 会	社団法人日本衣料管理協会, 日本家政学会, 繊維学会, 日本色彩学会 1. 日本家政学会第36回研究発表会および講演会運営委員(H26年10月) 2. 日本繊維製品消費科学会2014年次大会実行委員(H26年1月~11月) 3. 一般社団法人繊維学会繊維学会創立70周年記念事業顧問(H25年3月) 4. 日本家政学会関西支部京都地区幹事(H24年4月~H28年3月) 5. 日本家政学会代議員(H24年1月~H28年3月) 6. 日本家政学会関西支部京都地区幹事(H20年4月~H22年3月) 7. 2021年度日本家政学会中部支部大会実行委員(令和2年3月~令和3年10月)			

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
I 教育方法の実践例		
1. 初夏の涼風 ‘うちわ’ 展示	R 元年 6月3日~ 15日	染色加工実習の第11~14回は染色体験として工芸染色を実施する。その中の1つの技法体験では、和紙と顔彩を用いて型染技法による‘うちわ’を制作し、本学図書館ギャラリーにて展示を開催した。
2. 植物染料による伝統色の再現へ ‘かさねいろ’ 展示	R 元年 11月21日 ~12月2日	令和元年度の卒業研究「植物染料による伝統色の再現への試み」で制作した絹生地に茜、紫根、紅花、藍で染め、平安時代のかさね色目に近似した色相で配色した染布を 本学図書館ギャラリーにて展示を開催した。
3. 染色加工実習 工芸染色体験 — 絞り染技法 —	R5 年 3月2日 ~4月3日	本展示作品は、生活環境学科3年「染色加工実習」第13~15回工芸染色体験での絞り染技法による作品である。絞り染技法は染色技法のなかでも分かりやすく、染色初心者にも楽しく染色が体験できる。今回は、綿ローンハンカチを用いて直接染料で染めた作品ならびに絹生地を用いて酸性染料で染めた作品の2種類を本学図書館ギャラリーにて展示した。
II 作成した教材		
1. 「色彩学」授業用教材の作成	R 元年度	本講義の目的は、「人が色を認識するしくみ」や「色の分類・識別方法」などを理解するために必要な光学・生理学・心理学など科学的な基本要素を身に付けることにある。また、色彩検定・カラーコーディネーター検定試験対策を意識した講義である。本教材はAFT色彩検定3級編ならびに色彩学関連書籍を参考として作成し、テキスト・パワーポイントとして使用する。一方、テーマごとの確認小テストを作成し、それを用いる。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
2. 「色彩学演習1・2」授業用教材の作成	R 元年度	<p>色彩学で学んだ知識を基礎とし、「色の表示方法」「色の測定」に関する理解を深めるための解説と演習教材(配布資料・パワーポイント)はテキスタイルアドバイザー必修科目の教材として作成する。授業では、色彩色差計(KONIKA MINOLTA CR-400 D65)を用いて色の測定を体験させる。一方、演習問題は配色理論に基づいた色彩構成を修得するためのテキストを作成し、使用する。また応用編では、アクティブラーニング学習法を取り入れ、色彩の視点でファッション・インテリア分類したポジショニングマップを作成し、受講生にはそれについての発表を課す。</p>
3. 「テキスタイル材料学」授業用教材の作成	R 元年度	<p>ファッション・インテリア材料として使用される繊維・糸・布の基礎知識の修得を目的したテキスタイルアドバイザー必修科目の教材テキストを作成する。また、近年の快適素材や企業のサステナブルへの取り組み等について、織研新聞・文献をまとめた資料を作成する。授業では学生に問題意識をもたせる工夫として、アクティブラーニング学習法を取り入れ、学生自らそれらの資料から興味ある内容についてさらに調査した事柄についてのレポートならびに発表を課す。</p>
4. 「テキスタイル材料学実験」授業用教材の作成	R 元年度	<p>衣料品の品質管理や消費者からの苦情処理に対応できるよう衣料素材の鑑別法やその特性を実験データから読み取り考察できる能力を育成することを目的としたテキスタイルアドバイザー必修科目の教材テキストを作成する。</p>
5. 「染色加工学」授業用教材の作成	R 元年度	<p>染色された素材について染色加工という視点からその加工工程、染料の種類と性質、浸染や捺染の方法、特殊加工の基礎知識を修得することを目的としたテキスタイルアドバイザー必修科目の教材テキストを作成する。また、近年の話題となる染色加工業界の現状やサステナブルへの取り組み等について、織研新聞・文献をまとめた資料を作成する。授業では学生に問題意識をもたせる工夫として、アクティブラーニング学習法を取り入れ、学生自らそれらの資料から興味ある内容についてさらに調査した事柄についてのレポートならびに発表を課す。</p>
6. 「染色加工実習」授業用教材の作成	R 元年度	<p>染色加工学の講義内容に基づき、第1～10 回実施する精練・漂白・染色・堅ろう度試験等の実験テキストを作成する。また、第11～14回染色体験では工芸染色を取り入れ、捺染は和紙を用いた糊型染、浸染は絞り染め方法による教材テキスト並びにパワーポイントを作成する。</p>
7. 「テキスタイル演習」授業用教材の作成	R5 年度	<p>本講義の目的は、演習を通してアパレルやインテリア材料への理解を深め、さらに衣服の製作・構成学においてそれぞれに適した素材選択が出来る能力を身につける</p>

事 項	実 施 年月(日)	概 要
<p>Ⅲ その他</p> <p>1.オープンキャンパス学科講座 商品の売れ行きは色で決まる！</p> <p>2. R2年度入学前教育 生活環境学科(衣領域) 2020‘春・夏インターカラーを企画しましょう！</p> <p>3.令和元年 オープンキャンパス 学科講座 便箋・封筒・ハガキを作りましょう！ ～和紙を用いた型染～</p> <p>4.COLOR no.173 2019年度色彩管理士第14期認定者の紹介文掲載</p> <p>5.スプリングオープンキャンパス模擬授業動画 「色の視覚効果」</p>	<p>H30 年度</p> <p>R 元年度</p> <p>R 元年度 7 月 21 日</p> <p>R2 年 11 月 30 日</p> <p>R3 年 3 月 12 日</p>	<p>ことである。また、専門職に就職した際に高度かつ複雑な衣料品の品質管理や苦情処理に対応できる技術を修得するため、衣料素材の鑑別法や各種物性実験から応用力を育成する。</p> <p>商品コンセプトが決まると、それに基づいた色彩計画が展開されます。商品の売れ行きは、消費者に商品イメージを伝えることが重要です。実際に商品コンセプトにそった色彩計画を行い、その商品が消費者に伝わったかチェックしましょう！（パンフレット文章抜粋）<u>横山早美</u></p> <p>インターカラー（INTERCOLOR）は、世界各国のカラーの専門家が集まり、年に2回、シーズン毎のカラートレンドの方向性を検討する会議である。日本では一般社団法人日本流行色協会が出席する。インターカラーの情報は、実シーズンの2年前という早い時期に選定され、その後の様々な分野のカラー動向に大きな影響を与える。設問1では、2020年の世界、日本社会（経済・人々の生活・環境等）はどのようにになっているか、自由に想像したことを記述させ、設問2は、設問1からイメージするキーワードを3つ挙げさせ2020年春・夏インターカラーを提案させる。これらの問題作成ならびに説明3回を実施。また、提出された2回の課題に対する講評を行った。<u>横山早美</u></p> <p>市販型を用いて和紙に顔彩で染色します。そのため、色彩は日本画風の落ち着いた便箋・封筒・葉書に仕上がります。また、型紙にイニシャルを彫って彩色することもできます。是非、お友達にオリジナルレターセットで、LINEとは異なったツール方法のコミュニケーションを！（パンフレット文章抜粋）<u>横山早美</u></p> <p>私の専門はファッション関連のため、「景観色彩計画の実際」は新鮮で興味深い内容でした。常々、ヨーロッパに比べ日本の街並み景観の悪さが気になっていました。しかし景観法施行が15年前と知り、その疑問も解決しました。次に、印象深かった「実習で学ぶ一色の混色方法」では4色の絵の具で指定色を作るのに悪戦苦闘したことが懐かしく思い出されます。今後は、色彩管理士講座で得た知識・技能を色彩の授業に活かさせていただきます。</p> <p>私たちが見ている色の世界は、一つの色だけで構成されていることはない。色と色とが隣合ったり、また、ある色を背景にして、別の色を見ている。普段の生活ではそれらを意識せず見ているが、その色だけで見た時とは異なる色の見え方に変化が生じる。また、ある色を見た後に別の色を見ると、最初に見た色の影響によって、後から</p>

事 項	実 施 年月(日)	概 要
6. スプリングオープンキャンパス模擬授業 「色はなぜ見えるのか」	R3 年 3 月 12 日	見る色は変化して見える。 このように、空間的、時間的に近接した色はお互いに影響を及ぼし、その色の見え方に変化が生じる。 それでは、実際に体験して頂きましょう。
7. 授業動画掲載 「色彩文化・色彩配色について学びました」	R5 年 2 月 22 日	私たちが色を見るということは、光源と物体そして視覚（眼）の三つの要素が必要である。光とは電磁波の一種で、波長の長さによって長波長、中波長、短波長の三つに分けることが出来る。物体に光が当たると、反射、吸収、透過のいずれかの経路をたどる。私たちが色を見るとは、物体に光が当たり反射、透過した光が視覚に入り、網膜に達した光は視細胞で感じ、そこで神経信号に変換され、脳へと送られ視覚となる。 「色彩学演習 2」第 2, 3 回色と文化 (1) (2) 日本の色彩文化 授業風景を撮影し、本学科の授業紹介動画として本学 NEWS に掲載。
8. スプリングオープンキャンパス模擬授業 「色の心理効果」	R5 年 3 月 11 日	色の働きは、「機能的な働き」と「感性的な働き」がある。本講義では「機能的な働き」の心理効果の説明です。その効果は色の三属性（色相・明度・彩度）が関係する。様々な事例を通し、普段気づかない色の見え方を学習する。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論文	天然染料の色彩に関する研究	単	R3 年 3 月	名古屋女子大学 / 紀要・第 67 号	筆者は、天然染料の染布の実用化に向けた1つの試みとして、デザイン企画の際に簡易に色彩配色が可能な PCCS ヒュートーンシステムの作成を試みた。なお、本実験では色彩のみに着目して行ったため、染色方法や染液の配合調整に関しては一定の規則性については考慮せず、得られた染布の色彩のみについて行った。 試料布は天然染料が最も美しく染まる絹布、また色材は選択した4種類を用いて基本染布を作成した。一方、染液はそれらの色材から抽出した赤色色素・黄色色素・青色色素・紫色色素を配合した染液を使用した。次に、得られた染布の色彩は色彩色差計を用いて L*a*b*表色系、マンセル値を測定、次にその数値を

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論文	肌色とパーソナルカラーとの関係	共	R4 年 3 月	名古屋学芸大学メディア 造形学部 研究紀要 vol.15	<p>用いて PCCS 表色系変換からのヒュー トーンシステムの提案である。 <u>横山早美</u></p> <p>本報の肌色とパーソナルカラーとの 関係における検証では、被験者は 通常の化粧、髪の色で PC 診断を行 うため、その人の基本の色(肌、目、 髪の色)がパーソナルカラーに影響 する。実際の PC 診断では、判定者 は主観的な視感評価で被験者の肌 色からアンダートーンそしてカラード レーブから、その人の基本の色が生 き生きと輝くシーズンカラーを判定 する。そして、その両者の総合評価 から被験者のパーソナルカラーを決 定した。</p> <p>判定者は何れも主観評価で行 い、得られたデータはマンセル表色 系(HV/C)で表示した。次に、それ らのデータを色彩集計ソフト PCCS Color Calc で PCCS 表色系(ト ーン・色相)に変換し、肌色とパーソ ナルカラーとの関係を分析した。</p> <p>その結果、顔の肌色とパーソナルカ ラーは、その人がもつ肌色がそれに 強く影響する場合と基本の色(肌、 目、髪の色)が総合的に影響する場 合の2つに分かれた。</p> <p>また、肌色のみという限定した PC 診断を想定した際の顔肌色の代用 身体部位として手の肌色に着目し、 顔と手の肌色の有意についての検 討を試みた。</p> <p><u>横山早美, 山縣亮介</u></p>
	天然染料の色彩に関する研究(第 2報) —製品の実用化に向けた検討—	単	R5 年 3 月	名古屋女子大学 / 紀要・第 69 号	<p>前報¹⁾は天然染料で染めた絹布の 実用化に向けた1つの試みとして、 デザイン企画の際に簡易に色彩配 色ができる PCCS のヒュートーンシ ステムを提案した。本報は引き続き、 前報の 15 種類の中から 6 種類絹染 布を用いて、洗濯堅ろう度試験、摩 擦堅ろう度試験、耐光堅ろう度試験 から天然染料で染めた絹染布の実 用化に向けた初期段階での検証を 行った。実験では、JIS に従った洗</p>

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
					<p>濯前・後の6種絹染布の変退色, また汚染の評価は変退色用グレースケール(JISL0804)ならびに汚染用グレースケール(JISL0805)を用いた. それらの判定は視覚による1~5級の等級評価で行った. 本報では, 初期の試みとして, 洗濯前・後の絹染布を色彩色差計で測定し, その値から算出した色差ΔE^*abと色調変化$\Delta L^* - \Delta C^*$からの検証を試みた. また, 色彩の変化を瞬時に視覚で判断できるマンセル色相別散布図を作成し, 絹染布の色彩変化を視覚からも確認した. これらの結果から, 本報で使用した紅花の黄色(可溶性サフロールイエロー)で染めた絹布の洗濯後の変退色に若干問題が認められた. 一方, それ以外の染布に関しては商品としての実用化が期待できる.</p> <p style="text-align: right;">横山早美</p>